

# うれしのコミュニティ・フリーマルシェ構想（市民ファンドレイジング提案）

## I. 構想の目的

嬉野市では、地域ごとの人のつながりが希薄になりつつあり、同時に市民が「自らの手でまちを支える仕組み」も十分に整っていない。

本構想は、市民一人ひとりが主体となり、\*\*楽しみながら地域を支援できる「ファンドレイジング文化」\*\*を育てるために、家族型コミュニティ・フリーマルシェを定期開催することを目的とする。

## II. 基本コンセプト

「売る・つながる・支える」を三本柱にした市民主体の交流・寄付イベント。

市民・外国人・移住者・学生・子ども・高齢者が、平等に参加できる場。

出店料や売上の一部を地域基金（例：「嬉野まちづくり応援ファンド」）に充てる。

## III. 開催の基本モデル

項目	内容
名称（仮）	うれしのコミュニティ・フリーマルシェ
開催場所	みゆき公園、塩田津街並み、吉田焼会館広場、茶交流館前など持ち回り
開催頻度	毎月第2または第4日曜日（季節イベント連動）
出店者	一般市民・学校・企業・団体・留学生など誰でも参加可
出店内容	古着・雑貨・手作り食品・リメイク品・野菜・キモノ・陶器など
体験ブース	子ども向けワークショップ、外国人文化紹介、チャリティ販売など
ファンドレイジング	出店料+売上の3～5%を「地域まちづくり基金」へ寄付

## IV. 特徴と意義

### 1. 市民がつくる「共助の文化」

行政主導ではなく、各地域の自主運営委員会が中心となり、市民の「与える喜び」を育む。

→「誰かのために何かをしたい」という気持ちを、楽しい場で形にする。

## 2. 地域内経済の循環

地元野菜やリサイクル品の販売、再利用文化の普及により、ゴミを減らし、地域内でお金が回る仕組みを構築する。

## 3. インターナショナルフレンドシップ（多文化共生という言葉は避けたい）

外国人労働者や国際結婚家庭が「母国料理」「文化展示」「子ども向け英語体験」などを行い、嬉野に住む多国籍住民同士の理解と友情を深める。

## 4. 子ども・学生の社会教育

高校・大学の観光・商業・デザイン系学生に、運営や広報、ボランティア体験を提供。

→ 若者が「地域と関わる第一歩」を踏み出す機会に。

## V. 運営体制（例）

役割	内容
実行委員会	地区代表、市民ボランティア、NPO、外国人代表、学生代表
広報・SNS担当	Instagram・Facebook・地域LINEで告知
出店管理	登録・会場配置・安全管理
基金会計担当	寄付金管理、決算報告、次回活用計画の発表
出店内容	古着・雑貨・手作り食品・リメイク品・野菜・キモノ・陶器など
環境・ごみ対策	リサイクル回収・マイバッグ推進

## VI. 成長ビジョン

### 1. 第1段階（2026年度）

市内3地区で定期開催。地域基金の創設。

### 2. 第2段階（2027年度）

「うれしのフリーマルシェ・フェスティバル」として全市連携開催。

### 3. 第3段階（2028年度～）

市民が投票で支援先を決める「嬉野まちづくりファンド」と連動。

→ 市民参加型の“寄付経済”が根づく。

## VII. 期待される効果

- ・ 地域愛と市民の誇りの醸成
- ・ 孤立高齢者・外国人・子育て世代の交流促進
- ・ 地域の小規模ビジネス・手仕事支援
- ・ ゴミ削減・リサイクル文化の拡大
- ・ 市民自らが地域再生の主役になる新しい仕組みの定着



## VIII. 今後の展開案s

- ・各地域に「ミニ・マルシェチーム」を設け、地域単位で実験開催
- ・市内のカフェ・店舗とのコラボ企画（例：「ベジキッチン出張カフェ」）
- ・外国人ボランティアによる「英語フリーマーケットデー」
- ・売上の一部で「子ども食堂」「地域花壇」「祭り再生」などを支援



## IX. スローガン案

「つなぐ・わかちあう・うれしの未来」

家族で楽しむピクニック型マルシェが、まちを笑顔に変える。

以上。

文責：デローラ多加子（春日）